

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：34319

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580043

研究課題名(和文)戦時下の漫画に描かれた戦地及び植民地の表象研究

研究課題名(英文)A study of the symbolic representation of the battlefront and Japan's colonies in wartime Manga

研究代表者

牛田 あや美(ushida, ayami)

京都造形芸術大学・芸術学部・准教授

研究者番号：00468729

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：国会図書館などで収集した資料を基に、論文・学会発表、書籍の出版をした。主に子供雑誌に掲載された「外地」を描いたマンガを中心に、少年・少女小説、それに付随する挿絵なども同時に調査していった。「外地」の表象は、戦中、戦前とはとらえ方が異なっていたことが明確になり、他分野で研究、外地への旅とも関係していることがわかった。

仮定として日本で活躍した外地出身のマンガ家がいると考えていた。日本名を使用していたことから、難航したが探し出すことができた。別々の人物として日本、韓国で語られている。彼の「朝鮮」を描いたマンガ、挿絵の表象と、日本での作品の差異は、未来への研究課題となったことが功績となった。

研究成果の概要(英文)：These studies have focused on the symbolic representation of overseas territories (gaichi) published in children's magazines and in boys' and girls' novel. It is clear that the symbolic representation of "gaichi" differed significantly in the Meiji the Taisho Eras before the war. My study is particularly concerned with the question of travel to gaichi territories. Taking an interdisciplinary approach to the question of travel to gaichi areas, we can understand more about the phenomenon and connected issues. I hypothesized that there may have been manga artists from "gaichi" areas working in prewar Japan. I assumed that such an artist would have used a Japanese name, but it was still possible to find him. This artist is known in Japan and Korea as two separate persons. My future research will focus on his work investigating the difference between the symbolic representation of 'Korea' and 'Japan' in his cartoons.

研究分野：芸術

キーワード：芸術表現 大衆芸術 漫画史 メディア

1. 研究開始当初の背景

「漫画」は世界に誇れる固有の日本文化であるにもかかわらず、漫画史が確立していない。マンガはいまでこそ、日本の誇る文化の一つとなっているが、芸術としての評価は未だに低い。その一因として考えられるのが日本漫画の歴史が確立されていないことにある。近代以降の芸術に関する学問の多くは西洋からのものであり、日本はそれを学ぶ立場として、独自で切り開く努力をする必要がなかったといっても過言ではない。しかしながら「漫画」という分野は、複製技術以降の比較的新しい芸術であること、加えて日本の漫画・マンガは一風変わった(主に子どもの文化の中で醸成)発展を遂げた面があることから、欧米の研究を待つのではなく、今日本で最も研究を進めねばならない芸術形態の一つである。

平成21、22年度若手研究(B)課題番号21720052では、戦後の日本映画における評論・批評をデータベース化したとともに、それらを検証した。戦後の漫画批評が繰り広げられていた雑誌もデータベース化した中にあり、映画雑誌は映画だけでなく、漫画をはじめ当時のサブカルチャーなどの小文も多く掲載していた。そのため本研究をするにあたり資料のいくつかをすでに持っていた。また平成25年度、勤務している京都造形芸術大学から特別制作研究費助成(30万円)を受け「戦前・戦中におけるマンガ」のタイトルで研究を進めている。それゆえ、国立国会図書館、国立国会図書館国際子ども図書館、昭和館など戦前・戦中の子どもむけの漫画雑誌が現在どのくらい残っているかを把握した。収集した資料と新しく探す資料によって研究をすすめた。

2. 研究の目的

本研究の最終的な目的は、戦前・戦中に

おける「漫画」のなかに描かれた当時の戦地・植民地であった“異国(外地)”の表象を明らかにするものである。戦前における“異国”への旅行、戦中では部隊とともに従軍している漫画家(挿絵家も含む)たちもいた。カメラマンだけでなく、画家や漫画家たちも従軍していることを鑑みると写真だけでなく「絵」も戦争のプロパガンダとして使用していたことは明らかである。戦時下における“異国”の表象を通し「漫画」の「絵」に描かれる物語、それに付け加えられる「文字」によって、戦時下の「漫画」を明らかにし、「漫画史」への布石となるべく新たな視座を目指す。

3. 研究の方法

本研究の前段階とし、平成25年度京都造形芸術大学から特別制作研究費助成を受け、日本の漫画史に空白の部分が存在し、仮定ではあるが原因の一部を解明した。平成26年度は前年の研究を受け、資料収集を進めるとともに、戦時下の漫画で手に入るものの可能な資料を収集し、それらを読み込み当時の漫画状況を把握する。平成27年度は26年度の資料・古漫画収集に加え、それをデータ化した。本研究の文献資料は戦時下の物資が乏しい時のものであり粗悪なものが多く、そのまま保存することが困難なためである。平成28年度は、26年度、27年度の資料・古漫画収集を引き続くとともに、本研究の発表を行った。

4. 研究成果

夏・冬・春の授業のない期間、さらに土日を活用し、国会図書館、国際子ども図書館、昭和館、演劇博物館などで資料を収集した。特に戦前の子ども向けの代表的雑誌である『少年倶楽部』『少女倶楽部』『幼年倶楽部』を中心に収集していった。また、

大学の図書館において、昭和5, 6, 7, 8年度の『復刻愛蔵版 少年倶楽部』を購入した。復刻版でも大変価値ある資料である。これらの資料をもとに、「マンガ史」の授業を現在行っている。戦争に起点をおき、マンガ作品や作家たちのことを話している。資料がほとんどない状態であったが、原書と同じ形をした復刻版やカラーの複写資料を活用することにより、学生たちが興味を示していた。また復刻版では付録のいくつかも再現されており、実際付録などを手にしてみると今では考えられないものが多く、復刻版であっても現物を学生の前に提示することの大事さを学んだ。現在とのマンガの差異に学生たちの驚嘆ぶりに、驚いていた。また授業においてこれらの研究を講義したことにより、2014年度卒業の学生が、戦前のマンガについて卒業論文を書き、本年度、同テーマで本学の大学院に入学した。

本研究が採択される前年、2013年度、映像学会の分科会において「戦前・戦中の漫画-子どもたちはどのように需要したのか-」を発表しており、2014年度は資料収集と前年の発表をもとに紀要にて「少年倶楽部復刻愛蔵版-昭和五年一月号～昭和八年一二月号の「漫画」をめぐる-」を執筆した。2014年5月、映像学会の大会にて「子供雑誌に描かれた「写真小説」-戦時下の漫画研究をめぐる-」の研究成果を発表した。

2015年度は収集した資料を基に、子供雑誌に掲載された「外地」を描いたマンガを中心に、少年・少女小説、それに付随する挿絵なども調査していった。映像学会では「雑誌に描かれた「写真小説」-戦時下の漫画と映画-」と題し「戦時下の漫画に描かれた戦地及び植民地の表象研究」においての中間発表を行った。また映像学会の分会では「「外地」への憧れ-メディアとしての漫画-」と題し、現在まで調査した「外地」を描いたメディアとしてのマンガを発表し

た。これらを基にし「メディア活用能力とコミュニケーション」というテキストを執筆した。このテキストを「マンガ史」の講義のなかで使用している。

2016年度も、一昨年、昨年と同様に国会図書館、国際こども図書館、昭和館、演劇博物館などで収集した資料をもとに研究発表、論文作成をしていった。雑誌に発表されたマンガや挿絵に描かれる「外地」の表象は、戦中、戦前とではとらえ方が異なっていた。それは他分野で並行している、戦前の外地への旅の研究がすすんでいることもあり、そことリンクしていることがわかってきた。

また韓国のスンシル大学で発表を行うことができたため、戦前の「朝鮮」にスポットをあて、研究と発表をしてきた。今回、この研究をするにあたり、仮定として日本で活躍した外地出身のマンガ家を探せるのではないかと考えていた。当時はみな日本名を使用していることが多かったことから、なかなか探せなかったのだが、探し出すことができた。戦前の「朝鮮」を描いたマンガ、挿絵の表象と、日本で活躍していた外地のマンガ家の発表を行ったことで、新しい研究テーマがでてきたことは、大きな功績となった。同一人物であるにもかかわらず、日本名、韓国名と二つあることから、別々の人物として、日本、韓国で語られている人物であることがわかった。加えて、さらに時代をさかのぼり、日韓併合前の「朝鮮」の表象がどうであったのか、論文を作成した。その結果、併合前の「朝鮮」の表象が、その後、戦前、戦中の日本の雑誌での扱われかたに大きく影響していることがわかった。本研究「戦時下の漫画に描かれた戦地及び植民地の表象研究」により、より多くの研究課題がでてきたことは、未来へとつながる研究の布石となった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

牛田あや美、少年倶楽部 愛蔵版-昭和五年一月号~昭和一八年十二月号の「漫画」をめぐって-、京都造形芸術大学紀要、査読有、genesis18、2014、128-138

牛田あや美、雑誌に描かれた「写真小説」-戦時下の漫画と映画-、京都造形芸術大学紀要、査読有、genesis19、2015、100-108

牛田あや美、子供雑誌にみる戦前の外地の表象-朝鮮を中心に-、日本映像学会会報、176、2015、63

牛田あや美、明治時代の雑誌にみる「朝鮮」の表象、クロストーク、5号、2017、印刷中

〔学会発表〕(計 3 件)

日本映像学会第41回大会、子供雑誌に描かれた「写真小説」-戦時下の漫画研究をめぐって-、2015年05月31日、京都造形芸術大学(京都府・京都市)

日本映像学会分科会クロスメディア研究会、「外地」への憧れ-メディアとしての漫画-、2015年11月28日、大妻女子大学(東京都・千代田区)

日本映像学会文科会クロスメディア研究会(国際学会)、子供雑誌にみる戦前の外地の表象 - 朝鮮を中心に -、2016年08月23日、スンシル大学(韓国・ソウル)

〔図書〕(計 1 件)

牛田あや美、他、大学図書出版、メディア活用能力とコミュニケーション、2016

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
牛田 あや美(USHIDA, Ayami)
京都造形芸術大学・マンガ学科・准教授
研究者番号：00468729

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()